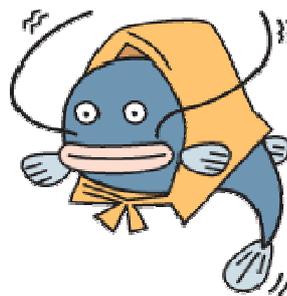


緊急地震速報 なまずきん



マンスリー レポート
2009年 4月号

発行元 株式会社 ハレックス

「気象庁震度階級関連解説表」を改定

～ 気象庁：3月31日より運用開始 ～

今回の改定版では、各震度に対応して発生する現象や被害の状況をできるだけわかりやすく表現し、地震に対する日頃の備えや災害応急活動に幅広く活用いただくことを主眼としています。

気象庁が発表する震度は、震度計により観測されます。気象庁の震度観測は、平成8年、それまで人の体感に基づいていたものから震度計によるものに変わり、震度情報の速報体制が確立しました。その結果、震度情報は災害応急活動などに広く活用されることとなりました。

この震度観測の変革とともに、気象庁は、ある震度の揺れがあった場合、その場所でどのような現象や被害が発生するかを示す「気象庁震度階級関連解説表」を作成しました。

しかし、この解説表は、作成から10年以上が経過し、社会状況等も変化したため、必ずしも時代に合わない点も出てきています。

このため、今般、「気象庁震度階級関連解説表」の改定を行いました。この改定版の内容は、学識

経験者及び行政委員よりなる「震度に関する検討会」（座長：翠川三郎 東京工業大学大学院教授）で議論し、平成21年3月23日にとりまとめたものです。

今回の改定版では、各震度に対応して発生する現象や被害の状況をできるだけわかりやすく表現し、地震に対する日頃の備えや災害応急活動に幅広く活用いただくことを主眼としています。

今回の解説表は、新たな「気象庁震度階級関連解説表」に加え、地震発生時に身の安全を図る行動に結びつくことに配慮し、一般の方々向けに、地震時にとるべき行動も記載した「震度と揺れ等の状況（概要）」、及び、ご利用にあたって参考となる資料を添付した構成となっております。

（気象庁広報用資料を一部抜粋・加筆修正）

今回の改訂版では、人の体感・行動、屋内の状況、屋外の状況、木造建物（住宅）の状況、鉄筋コンクリート造建物の状況、地盤・斜面等の状況、ライフライン・インフラ等への影響、大規模構造物への影響、の6つの解説表など示されています。次の表は「地盤・斜面等の状況」の例です。詳しくは（<http://www.jma.go.jp/jma/kishou/now/shindo/kaisetsu.html>）をご参照ください。

● 地盤・斜面等の状況

震度階級	地盤の状況	斜面等の状況
5弱	亀裂 ^{※1} や液状化 ^{※2} が生じることがある。	落石やがけ崩れが発生することがある。
5強		
6弱	地割れが生じることがある。	がけ崩れや地すべりが発生することがある。
6強	大きな地割れが生じることがある。	がけ崩れが多発し、大規模な地すべりや山体の崩壊が発生することがある ^{※3} 。
7		

※1 亀裂は、地割れと同じ現象であるが、ここでは規模の小さい地割れを亀裂として表記している。

※2 地下水位が高い、ゆるい砂地盤では、液状化が発生することがある。液状化が進行すると、地面からの泥水の噴出や地盤沈下が起こり、堤防や岸壁が壊れる、下水管やマンホールが浮き上がる、建物の土台が傾いたり壊れたりするなどの被害が発生することがある。

※3 大規模な地すべりや山体の崩壊等が発生した場合、地形等によっては天然ダムが形成されることがある。また、大量の崩壊土砂が土石流化することもある。

なまずきんの働き (2009年3月)

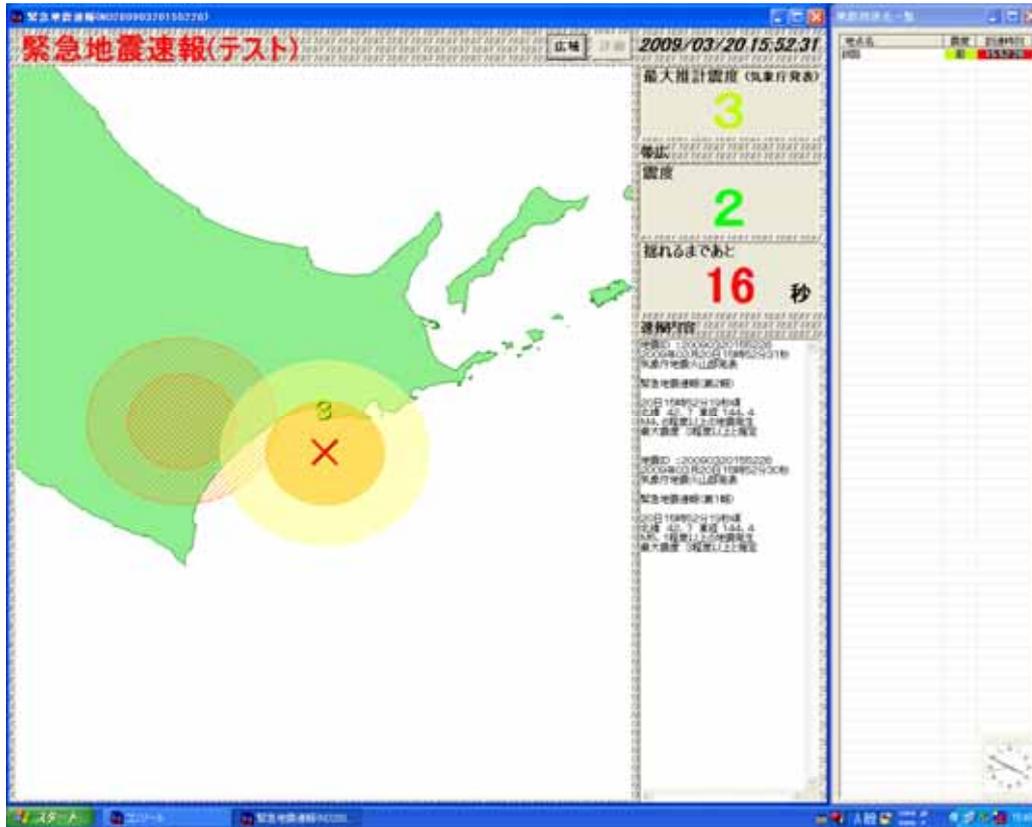
【発信数概要】

緊急地震速報(予報)が28個の地震に対し発信され、発信の総数は133通でした。平成18年8月に先行運用が始まってからの月平均データと比較しますと、地震数は約52%、発信数は約43%と非常に少ない月でした。

また、推定震度4以上と報じた地震または震度4を観測した地震はありませんでした。これは昨年2月に続き2回目のことでした。なお、推定震度4以上と報じた地震の月平均発生数は6.6個です。

【釧路沖の地震】

20日15時52分に釧路沖の深さ64kmでM5.0の地震が発生し、北海道の12地点で震度3を観測したほか、北海道から岩手県にかけて震度2~1を観測しました。今回の地震は、発震機構(地震を起こ



した断層の位置や方向、地震の際の断層の動きのこと。メカニズムともいう)などから沈み込む太平洋プレートの内部で発生した地震と考えられています。高度利用者向け緊急地震速報の第1報は、地震発生後の約11秒後に発表されました。帯広では、主要動が到達するまでには16秒程度の余裕がありました。

高度利用者向け緊急地震速報の第1報が発表された時点でのP波、S波の伝播状況を示す“なまずきん”の画面。×印が震央で、外側の円がP波、内側の円がS波の拡がりを現わしており、S波が帯広市に到達するまで16秒、推定される震度は2であることを示しています。

緊急地震速報で最大震度が3と推定された地震(2009年3月)

日	時分	地域名	深さ (km)	マグニチュード	日	時分	地域名	深さ (km)	マグニチュード
7	21:32	熊本県熊本地方	6	M2.7	24	12:21	紀伊水道	10	M3.5
7	23:33	十勝沖	39	M5.4	25	15:26	茨城県南部	44	M4.0
20	15:52	釧路沖	64	M5.0					